

**青い森鉄道利活用アクション事業
業務完了報告書**

青い森鉄道利活用アクション事業
「青い森鉄道を楽しもう！プロジェクト」

平成 22 年 2 月

支え合いネットワークなんぶ

目次

1	はじめに	1
2	事業の企画	2～5
3	事業の実施状況	6～13
1		
4	事業の検証	14～16
5	事業の検証を踏まえた展開	17
6	終わりに	18

1 はじめに

本会は子どもから高齢者まで幅広い年代の会員で構成され、この生まれた場所で楽しく、元気にいつまでも笑顔で暮らせるようにと「安心と安全な暮らしを支える…そして、明るいまちづくり」を活動のテーマに掲げ、福祉、まちづくり分野において事業を進めています。

本格的に事業をスタートしたのは平成20年。20年度は①高齢者世帯や身体の不自由な方宅の簡易な生活支援サービス、②小・中学生、高校生が活動を通してボランティアの心を育てていくようにと子どもたちが自主的に自分たちで考え、実行する場づくりを目指した子ども活動支援、この2つの事業を主に実施してきました。

平成21年度は「このまちを楽しいまちにしよう」と地域活性化事業をプラスし、組織にも新たなメンバーを加え、事業を進めていきました。ちょうどそのときに、南部町からこの「青い森鉄道利活用アクション事業」のお話をいただきました。

南部町には三戸・諏訪ノ平・剣吉・苫米地駅と4駅もあり、この沿線で鉄道を活用した事業を展開することは地域活性化にもつなげられると考え、すぐに快諾し、町と共に青い森鉄道を盛り上げていこうと事業を進めていくことになりました。

この事業を進めていく上で一番感じたことは、私たち自身が鉄道利用という点で無関心だったということ、その反面、駅周辺の地域の方々は鉄道を利用してこんなことをしたいという思いが強いということでした。私たちもこの事業をきっかけに、無関心から深く関わることになったわけですから、これで終わりではなく、駅ごとの単体の地域を結び付けて、4駅それぞれの地域が共に盛り上げていけるようにつなぎ役となっていきたい。本会の名のとおり、ネットワークこそが人と人を結び、地域性という壁をなくす大きな力となると強く思い、ネットワークの広がりを目指し、事業の一步を踏み出しました。

「やりたいけど、やり方がわからない」という地域を私たちがきっかけをつくり、今後、駅周辺の住民や団体が一緒になって鉄道利活用のアクションをおこしてほしいと思います。もちろん、本会も単年度事業と考えた展開はせず、次につながる事業を目指していきます。

この青い森鉄道利活用アクション事業は畑の土づくりと種まきといえるでしょう。今回の事業完了でしっかりした基盤となる土づくり、そして次へつながる種をまくことができました。これから水をまき、肥料を与え、花を咲かせ、立派な実をならせるようその地域の方々と共に継続したアクション事業を進めていく新たなスタートをきったわけです。

これからのアクションに乞うご期待！

支え合いネットワークなんぶ
代表 四戸 泰明

2 事業の企画

アイデアというのはどこで生まれるか、食事中？運転中、寝る前、会議・・・
会員にどんなことをやるか宿題にして、次の集まりまでにそれぞれ持ち寄ろうということになりました。

●そのときメンバーそれぞれから出されたアイデア

- ・まずは自分たちが鉄道を利用しよう
- ・利用者が気持ちよく利用できる駅舎にしよう
- ・駅周辺のグルメをPRしよう
- ・Tシャツ着用してPRしながら活動しよう
- ・南部町の駅弁をつくろう
- ・鉄道を利用しての研修を行おう
- ・駅舎を利用した手づくり売店を開店しよう

このアイデアをカタチにしていこうとじっくり煮詰めていって最終的に企画されたのがこの4つ。

青い森鉄道を楽しもう！そして、盛り上げようと4つのアクションを軸に事業を実施することになりました。

- ①駅のクリーン作戦&飾り付け
- ②なんぶPRグルメ旅マップ作成
- ③駅舎内での手づくり売店
- ④なんぶの駅弁&スウィーツ開発販売



企画段階で重要視したのが、他の団体、人との協働です。

①駅のクリーン作戦&飾り付け

協働をねらう団体等 駅周辺の住民、団体、小中学校など

協働アクション 自分たちの駅を自分たちできれいに、そして魅力ある駅周辺の街並み、人づくりを目指す。

②なんぶPRグルメ旅マップ作成

協働をねらう団体等 取材先となる店など

協働アクション 鉄道を利用して訪れることのできるおいしい店をその店自身が目指すきっかけづくり、知っているようで知られていないこの地域の味を紹介し、PRす

る。

③ 駅舎での手づくり売店

協働をねらう団体等 駅周辺の住民、団体、農業生産者、手工芸品製作者など

協働アクション 駅を地域のコミュニティの場に、来たいと思う駅を地域で手づくりしていく。また、地元のいいモノを集め、生産者と消費者を結ぶ。

④ なんぶの駅弁&スイーツ開発販売

協働をねらう団体等 町内仕出し店など、名久井農業高等学校

協働アクション 南部町産の果物や野菜を使用した限定の駅弁やスイーツを開発し、販売することで地域活性化につなげていく。

そして、協働を軸に出されたアイデアの中身をふくらませるとこんな事業になります。

スタート ・まずは自分たちが鉄道を利用しよう

・利用者が気持ちよく利用できる駅舎にしよう

アクション 駅のクリーン作戦&飾り付け

● 4つの駅を電車で移動しながら清掃する電車でGO クリーン作戦

町内各種団体へ呼び掛け、参加者を募集。電車を乗り降りしながら移動して行く、一味二味も違うクリーン作戦の実施。

● 子どもたちの夢列車の絵を壁面に飾り付けるアートチャレンジ

剣吉駅こ線橋「あじさい通路」に剣吉小学校の3年生と協働で夢列車のアートを製作し、飾る。

スタート ・駅周辺のグルメをPRしよう

アクション なんぶPR グルメ旅マップ作成

● 駅周辺の「なんぶの味」を取材し、グルメ旅マップを作成。鉄道利用者に立ち寄ってもらうのはもちろん、取材先のお店とともに地域を盛り上げていくきっかけとしたい。

スタート ・駅舎を利用した手づくり売店を開店しよう

アクション 駅舎での手づくり売店

● 手づくりの売店を設置し、地元の農産物や工芸品、限定のなんぶのスイーツ、駅弁などの販売をし、生産者や商店会と共に盛り上げていく。

● ちょっと立ち寄ってひと息つけるような憩いの場、コミュニティづくりを目指す。

スタート ・南部町の駅弁をつくろう

アクション なんぶの駅弁&スイーツ開発販売

● 地元産の果物や野菜を使用した限定の駅弁を町内の仕出し店から協力店を募集し、開

発し、販売。地元の名久井農業高等学校と協働でなんぶのスイーツを開発し、高校生ブランド化して、町内の菓子店で販売する。

企画から実施までの流れ

7月 下旬 事業担当打ち合せ会議

内容：各アクションの具体的な内容の共通理解と実施の準備

8月 2日 電車でGO！クリーン作戦 試験的实施

内容：スタッフで時間設定など確認しながら、クリーン作戦を本番同様に実施。

8月 上旬 なんぶの駅弁協力店の募集

内容：町内の仕出し店等に呼びかけ、駅弁開発販売の協力店を募集。



なんぶのスイーツ開発販売プロジェクト

内容：名久井農業高校と協働で南部町産の果物、野菜を使用したスイーツづくりを開始。

9月 1日 なんぶの駅弁開発販売説明会

内容：なんぶの駅弁の開発販売にかかる説明会。



9月25日 なんぶのスイーツ試食審査会

内容：名久井農業高校がつくるなんぶのスイーツの試作品を試食し、審査し、販売する品を検討する。

10月 6日 なんぶの駅弁試食会

内容：八戸市城下まんまやがつくる「なんぶの駅弁」の試食会。

10月11日 青い森鉄道青森開業イベントにおいて 駅弁&スイーツの試作品販売

内容：イベントにおいて協力店の八戸市城下まんまやによる「なんぶの駅弁」と名久井農業高校の「なんぶのスイーツ」の試作品を販売。



まんまや



古町温泉

10月 なんぶの駅弁協力店との打ち合せ

内容：協力店に決定した八戸市城下のまんまやと南部町の古町温泉との駅弁開発にかかる打ち合せ。

駅アートチャレンジの打ち合せ

内容：剣吉駅こ線橋「あじさい通路」に飾る子どもたちのアート製作について剣吉小学校と打ち合せ。

11月 なんぶのグルメ旅マップの取材

内容：4駅周辺の「なんぶの味」を紹介するマップ作成のための取材。

11月13日 駅アートチャレンジ

内容：剣吉駅こ線橋「あじさい通路」に飾る壁画アートを剣吉小学校3年生が製作。

11月14日・15日 なんぶの粋な市&フリマにおけるなんぶの駅弁の試作販売

内容：協力店2店にそれぞれ駅弁を15ヶずつ用意してもらい、イベントにおいて販売。

11月22日 電車でGO!クリーン作戦

内容：三戸駅から苦米地駅まで電車で移動しながら清掃活動を実施。昼食ではなんぶの駅弁を準備。

12月3日 駅アートチャレンジ

内容：完成した壁画アートを剣吉駅こ線橋に飾る。

12月24・25日 なんぶの駅の手づくり売店

内容：剣吉駅の駅舎内において、手づくり売店を設置し、開店。



1月3日 なんぶの駅の手づくり売店

内容：三戸駅の駅舎内において、手づくり売店を設置し、開店。正月ということで、餅つきも行い、利用者にふるまう。

2月6日 なんぶのスイーツ販売

内容：南部地方えんぶり会場において名久井農業高校のなんぶのスイーツを販売。



2月15日 なんぶのスイーツ開発販売説明会

内容：名久井農業高校が開発したなんぶのスイーツを町内の菓子店で、製造、販売していくための説明会。

2月18日 なんぶのグルメ旅マップ

内容：取材内容をまとめ、デザイン、レイアウトされたなんぶのグルメ旅マップ完成。

2月19日 青い森鉄道利活用

アクション事業成果報告会

3月12日 なんぶのスイーツ品評会

内容：高校生が協力店の製造した菓子を味わって販売を決定。

3月22日 なんぶの駅弁&味旅マップ完成披露会

3月26日 なんぶのスイーツ完成発表会



3 事業の実施状況

① 駅のクリーン作戦&飾り付け

● 電車でGO！クリーン作戦

駅舎をきれいに環境美化活動することで利用する方が気持ちよく鉄道を利用してもらうと実施。

ここがポイント！

ただ清掃活動するのではなく、町内の4つの駅を、鉄道を乗り降りしながら、途中昼休憩では駅弁を食べるなど一味も二味も違うクリーン作戦。

継続した活動とするために、参加者が駅弁代と鉄道乗車賃を負担。
⇒低予算で来年度以降も実施可能な継続事業となる。

平成21年8月2日に本番のタイムスケジュールなどを確認するためにスタッフのみで試験的に実施。本番同様に清掃活動も実施し、移動も電車で行った。



駅を清掃したら電車で次の駅へ。普段ではできないクリーン作戦がこの活動の魅力！？ 電車でGO！



平成21年11月21日に電車でGO！クリーン作戦を実施。参加者9名で電車で移動しながら駅舎の掃き掃除や窓、床、天井などの清掃活動を行った。



● 剣吉駅こ線橋『あじさい通路』に夢列車を走らせよう！アートチャレンジ！

駅こ線橋『あじさい通路』をきれいに、夢ある通路にしようと剣吉小学校の3年生が壁面サイズのベニヤ板に夢の列車や駅の絵を描き、通路壁面に飾った。

ここが
ポイント！

駅やこ線橋を利用する方々に気持ちよく利用してもらうことはもちろん、その駅の地域に住む子どもたちが参加することで、今後利用する駅への思い入れを高める。また、駅をきれいに利用しようという意識向上にもつなげる。

平成21年11月13日に剣吉小学校において、駅こ線橋に飾るアート製作を実施。6グループに分かれて、思い思いの夢列車、駅を剣吉小学校3年生の子どもたちが描いた。



平成21年12月3日に完成した壁画アートを子どもたちと一緒に剣吉駅こ線橋『あじさい通路』へ飾る。



子どもたちの夢のあるアートで通路も明るくなったように思います。



Before



After

②なんぶ PR グルメ旅マップ作成

●なんぶのグルメ旅マップ

鉄道を利用しながら、駅周辺のおいしいもの、ここにしかないものなどのグルメを紹介。手軽に携帯できるサイズにし、観光客や普段鉄道利用する方にもPR。

ここがポイント！

まずはなんぶの味、グルメを紹介。それがつくる店のPRにもつながっていくことで、地域を元気にする。駅周辺のものと店舗数を2～3店にしぼることで、わかりやすいマップにし、店までのアクセスの詳細は載せないことで、駅で下車してその街をじっくり歩きながら探してもらうことも他の店をのぞくことにつながる。

10月から12月にかけて取材を実施。各店を訪問し、開業から今に至るまでのお話やこだわりの味、おすすめの一品について取材した。

各店の取材完了後、実際に旅をイメージしてスタッフがモデルとなり、店を訪れ、なんぶの味を味わった。

今回のマップ作成には鉄道を利用して駅で下車してちょっと寄ってみたいくなるような『なんぶの味』の紹介、それによって駅近辺のお店を盛り上げたいという思いが込められています。



旅マップに掲載される店を訪れるモデル。町民でもまだ知らない『なんぶの味』がありました。



人、味との出会い、旅マップにはそんな出会いを願いが込められています。



●完成したなんぶグルメ旅マップ

<p>ゆきとり家田 0178-22-8781 住所 三戸町南内字御殿105の4 三戸駅から南行バスで尾籠バス停下車徒歩3分。ユニバス三戸店駐車場 人気の高い本格、肉好き。美味しいラム内もメニューにあり、選べれば購入できる。</p>	<p>民家屋合村 0178-76-0103 住所 南郷町成字宮山26の1 錦吉駅下車、多目的バスに乗り、名川フェリーセンターバス停下車 自家産卵で栽培しているさくらんぼ使用のソフトクリーム、パイ、シュークリーム、手打ちのネゴそばもぜひ味わいたい。</p>
<p>山本もも店 0178-22-8781 住所 三戸町川守字元本平9の3 三戸駅下車、三戸町商店街方面へ徒歩10分ほど お漬物の味、やはり車もはわわっておいしい、ブルーベリーごつかつたあんじゅうもある。</p>	<p>工藤菓子店 0178-76-0163 住所 南郷町成字宮山ノ下6の13 錦吉駅下車、徒歩10分ほど 鴨子餅んじゅうの真っ白な糖がんの代わりに黒ゴメを混ぜた「こま鴨子」、赤べん太餅、ロイヤルに舌出しが伝統的。自家製あんを使用した「南郷おまんこ」だ。</p>
<p>尾井菓子店 0178-22-3416 住所 南郷町大向中飛鳥39の2 三戸駅下車、徒歩10分ほど 南郷町産の菓子シネネラルレクラークを使用したケーキが販売商品。</p>	<p>夏朝仕出し店 0178-76-0088 住所 南郷町成字大初8の10 錦吉駅下車、徒歩5分ほど 「なつばりのコロッケ」と若者男女がおいしい食べ歩きとして挙げるほど地元で有名な。サクッと揚げられたコロッケは、店主のこだわり一品。</p>
<p>福弁 0178-24-2007 住所 南郷町外田字北本村54の1 錦吉/平駅下車、徒歩15分ほど 早稲なごりやお弁屋を、馬淵川を眺めながら食べるとおいしい。健康も最高なので、たくさんのお味を楽しめる。</p>	<p>駒子菓子店 0178-24-2066 住所 南郷町吉米地字神洞下河原1の8 吉米地駅下車、徒歩7分ほど 錦吉駅からつくられた「美味のねね」は昔ながらの美味しい味。地元産のいんぴくを使用した菓子「ふくもホワイト」などもある。</p>
<p>山形製菓所 0178-34-2034 住所 南郷町玉字字御殿ノ下55の3 錦吉/平駅下車、徒歩5分ほど この地域産の小麦といえる「かっけ」がある。黒加納を保存料を使用しない自然なものでつくられる。</p>	<p>湯田舗・味噌店 0178-34-2043 住所 南郷町吉米地字下河原21 吉米地駅下車、徒歩10分ほど 伝統の製法でつくられる味噌・味噌のお店。県内外においてこの味に馴染んだお客さんがたくさんいる。自然になる貴重な味が店頭で売られている。</p>
<p>戸産せんべい店 0178-34-2163 住所 南郷町南内字藤分195の8 錦吉/平駅下車、徒歩7分ほど四道沿い 国道で南郷せんべいでききあがるのを見ることが出来るのもこの店の良さ。豆、ゴメ、アーモンドなど種類もたくさん。</p>	<p>発行元 支え合いネットワークなんぶ 〒039-0501 青森県三戸町南郷町大字上久井字上町12-2 TEL/Fax 0178-76-3585 http://www.npo-nanbu.org</p>



新しい旅道でゆく **なんぶ** 味の旅MAP



新しい旅道でゆく **なんぶ** 味の旅MAP

家からちょっと立ち寄ってみたい「なんぶの味」がそこにある

- ゆきとり家田の焼き鳥**
自家産卵のオレを混ぜた焼き鳥。タレの味は絶妙で、お肉が柔らかい。
- 山本もも店のおもち**
お餅がもちもち。お餅の味は絶妙で、お肉が柔らかい。
- 尾井菓子店の神ナシのケーキ**
南郷町の神ナシを使用したケーキ。お肉が柔らかい。
- 福弁のおにぎり**
おにぎりが絶妙で、お肉が柔らかい。
- 山形製菓所のかっけ**
この地域産の小麦といえる「かっけ」を使用したお菓子。お肉が柔らかい。
- 戸産せんべい店の南郷せんべい**
お肉が柔らかい。
- 民家屋合村のさくらんぼ三輪餅**
自家産卵のさくらんぼを使用したお菓子。お肉が柔らかい。
- 工藤菓子店のどな餅子**
この地域産の小麦を使用したお菓子。お肉が柔らかい。
- 夏朝仕出し店のコロッケ**
自家産卵を使用したお菓子。お肉が柔らかい。
- 湯田舗・味噌店の味噌**
自家産卵を使用したお菓子。お肉が柔らかい。
- 駒子菓子店のどな餅子**
この地域産の小麦を使用したお菓子。お肉が柔らかい。

③ 駅舎内手づくり売店

● なんぶの駅の手づくり売店

駅舎を活用し、屋台を設置して、品物を並べ、なんぶの手づくり売店として期日限定で開店した。冬の期間だったこともあり、売店近くのストーブのまわりに集まり、飲みながら、食べながら会話を楽しめるコミュニティの場ができていたのがとてもよかった。

ここが
ポイント！

スタッフは全員本会のみであったが、品物の協力として地元農家や名久井農業高等学校など協力してもらうなどより多くの方々に何かしら協力してもらい、次につなげる。また、売店としてだけではなく、ひとつの憩いの場となるような環境づくり。

平成 21 年 12 月 24 日、25 日のクリスマスに合わせて剣吉駅で、そして平成 22 年 1 月 3 日、正月には三戸駅でなんぶの駅の手づくり売店を開店。ちょっと洒落た屋台でコーヒーや野菜、名久井農業高等学校のにんにくクッキーなどを販売した。正月には餅つきを行い、つきたてのお餅を来られた方々に振る舞うイベントも実施。



1 月 3 日には「よいしょっ」の掛け声とともに餅つきを行いました。



お店には駅近辺の地域の方々がちょっと一休みにいらっしやいました。お話も楽しめるこんな売店があるのもいいと実感しました。

④なんぶの駅弁&スイーツ開発販売プロジェクト

●なんぶの駅弁&スイーツ

地元産の果物や野菜を使用した限定駅弁やスイーツの開発を行い、地域活性化につなげる。また、この開発によって鉄道利用の際のイベントや活動にも活用できた。

駅弁は町内の仕出し店など協力店を募集、最終的に八戸市城下のまんまや（祖母が南部町）と古町温泉が協力して開発販売することとなり、なんぶの駅弁寿と禄の2種類ができあがった。

スイーツは名久井農業高等学校で地元産のにんにくを使用したクッキーやパイスティックを開発販売した。製造者が高校生であるため常時販売をするのは難しいという点をクリアするために町内の菓子店に呼びかけ、協力販売店を募集し、決定。今後『名久井農業高等学校のなんぶのスイーツ』としてPRしながら菓子店で名久井農業高等学校のレシピで製造し、販売予定。

ここがポイント！

地元産の果物や野菜を使用し、なんぶの味のPRにつなげる。鉄道利用のイベント事業に大いに活用できる。高校生との協働により、幅広い年代の事業参画により一部の盛り上がりにはまらないような広がりとする。



なんぶのスイーツの審査会では、名久井農業高校の生徒がつくるスイーツを試食し、味や見た目、販売に向けての批評がされました。



南部町産のにんにく、ふくちホワイトを使用したクッキーやパイなどがなんぶのスイーツ候補に挙げられました。





青森開業イベントにおいてなんぶの駅弁とスイーツの試作販売が行われました。



なんぶの駅弁も試食審査を経て、改良に改良を重ねて、だんだんに完成に近づいていきました。

そして、それぞれの協力店である古町温泉（写真左）とまんまや（写真右）がアイデアと工夫で「なんぶの駅弁」を開発完成させ、3月22日に完成披露会を開きました。

2店が協力店ということもあり、それぞれ2種類の駅弁を十分に楽しめる内容になっています。

禄

寿



2種類のなんぶの駅弁寿（ことぶき）と禄（ろく）を限定注文販売していきます。

この駅弁から地域の魅力発信とPR、青い森鉄道に乗りながら「なんぶの味」を楽しんでいただきたいと思います。なんぶのスイーツは名久井農業高校ブランドとして町内の菓子店にて製造販売。

鉄道や駅の利活用をきっかけにして、駅弁やスイーツ、なんぶのグルメと、地域が一步あらたなスタートをきったような感じ。
これからのなんぶのアクションが楽しみ！





南部町のイベントにおいて試験的になんぶのスイーツを名久井農業高校の生徒が販売。町内の菓子店に呼びかけ、なんぶのスイーツ開発販売説明会を開催。高校生がプレゼンテーションし、協力をお願いしました。

説明会に参加した菓子店が協力店に決定となり、本格的な販売に向けてスタートしました。

パッケージは高校生がデザインします。キャラクターなどのイラストを何点か候補で挙げて、これから決められます。今後、名久井農業高等学校が開発したお菓子として協力店において販売します。



3月12日には協力店となった町内の菓子店が高校生のレシピで販売するお菓子を試作。その品評会を行いました。そして、なんぶのスイーツ完成発表会が26日に開かれ、4月から販売開始です。

4 事業の検証

①駅のクリーン作戦&飾り付け

この事業は単年度終わることなく、継続した活動となることが大切である。また、単一の団体だけではなく、多くの地域の団体や個人との連携により様々な方法での事業展開を進めていく必要がある。

今回の事業の結果、「電車でGO！クリーン作戦」は鉄道の発車時刻がちょうど1時間に1本といい具合にあり、清掃して、乗車してと時間設定がうまくいったわけであるが、ダイヤ改正や鉄道の本数減などこれから課題がたくさんあるということがわかった。

また、参加募集チラシを配るだけでは協力者はそう簡単には現れない。今回の募集方法として町内の各種団体30団体ほどに案内を出すだけだったため、今後は周知、募集方法を工夫していかなければならない。協力者の増加や各種団体との連携強化は他のアクションとのリンクをさせるのもいいだろう。例えば、駅舎利用の手づくり売店への協働団体、参画者など、「駅舎を利用して売店活動しているから、年に2度、クリーン作戦をみんなで行おう！」と盛り上がっていけばアクションごとにつながりができる。

駅アートチャレンジは剣吉駅での剣吉小学校3年生の活動のみとなったが、今後、他の駅でも実施していきたいところだ。今回はできなかったが、諏訪ノ平駅前の地図が描かれた掲示板は古くなって、はがれて見えづらくなっている。近くの小学校に呼びかけ、子どもたちで新しい駅前マップを製作するのもいい。三戸駅や苫米地駅についても子どもたちのアートで飾るアクションを検討していきたい。

子どもたちは将来高校生になったときに駅を利用することがあると思う。その時に小学校のころ、駅をきれいに夢ある駅にしようと活動したことを思い出して、いつまでもきれいに利用する心を持ち続けてほしい。このアクションにはこんな願いも込められている。

これが学校での教育という面で協力するにあたって重要なポイントになる。学校の負担を減にするため、準備等はこちらですべて行い、学校が協力しやすい状況を企画から実施までコーディネートしていく。

②なんぶPRグルメ旅マップ作成

町内の4駅周辺の「なんぶの味」をリサーチして、取材し、マップを作成したわけだが、紹介するお店側に趣旨を説明した中で、一緒に盛り上げていこうという気持ちの共有は今回のマップだけでは難しいと感じた。やはり、旅マップを作成し、これがいかに効果を表すかによって変わっていくことに期待したい。一部だけの盛り上がりではやはり地域の盛り上がりとは言えないだろう。今回の旅マップは作成者である私たち自身が手にして、鉄道で歩いてみたいと思うように製作した。店の紹介というよりも「なんぶの味」の紹介。そのため、店へのアクセスはマップだけ見ても大体の方向や場所は記載されていても詳細はわからないようになっている。それもねらいの一つなのである。「なんぶの味」が紹介され、それを目当てに鉄道を利用するためにはまずどの駅で下車すればよいかははっきりし

ていけばいいのである。そこからは駅から歩いて、街並みを見たり、景色を見たりしながらその店を探すのも、いろいろな旅の楽しみになるのではと考えている。

作成にあたって今だけしか活用できないマップにはならないように情報量も調整し、店がその「なんぶの味」を作り続ける限り、そのマップは活きるようにしている。

本会でもこの旅マップを活用してのグルメツアーでも実施し、作った当の本人たちがしっかりとPRして盛り上げていくことで、店といっしょに「なんぶの味」を広めて、より多くの方に味わっていただきたい。

③駅舎内手づくり売店

このアクションの目的は、駅舎活用はもちろん、地域の憩いの場づくり、そして生産者と消費者を結ぶ温かい売店の開店である。今回はクリスマスと正月というイベントに合わせた形での臨時的なものに止めた。乗客数や場所などの立地条件を考え、今回は三戸駅と剣吉駅の2駅で実施。今後、実施する場合でもこの2駅となるだろう。

内容としては、移動式の屋台を設置し、そこに地元の生産者から消費者につなげることを第一に農産物や加工品、工芸品などを店頭に並べるといふもの。売店機能としてはそれが主な内容となる。そこに、ちょっと会話を楽しんだり、ひと息つける地域の憩いの場とするコミュニティ機能をつけるのがこの手づくり売店の大切なところである。

実際に開店した3日間、開店をしていることを知った地域の方々が来られた率が高かった。鉄道利用者も利用するが、その売店を目当てに来る方が多かったということは、売店の中身をよくしていき、リピーターをつないでいけば、より大きな広がりをもせる可能性が高いということだ。交通手段として鉄道を利用すれば下車してすぐにその売店へ行けるという利点。鉄道利用で特典をつけるなどすればなおさらであろう。

本会のみによる手づくり売店の実施から地元商店会や団体、生産者と協力して〇〇駅手づくり売店の会でも立ちあげて、多くの方のアイデアあふれるコミュニティづくりをしていきたい。

今回はきっかけづくりとしては成果を出した。それにより、商店会や団体から次は一緒にやろうという声をもらえたことはとてもうれしいことだ。今後は実施結果をふまえて新たな「なんぶの駅の手づくり売店」開店に向けてスタートしていこう。

④なんぶの駅弁&スイーツ開発販売プロジェクト

なんぶの駅弁開発では、初めに町内の仕出し店等から協力店を募集し、説明会を開いたが、4店ほどしか出席されず、その後の協力店への応募もなく、開発販売は難しいかと考えていた。しかし、9月下旬に町内在住の方から、孫にあたる方の惣菜店の紹介があり、大きく一歩前進した。それが八戸市城下のまんまやである。

10月のイベントでの試作駅弁はそれから短時間での開発によりできあがったもので、容器や掛紙も決定していない状況での販売となった。その時のアンケート結果を考慮

し、さらに内容を改善していった。その頃、説明会に出席し、協力を検討していた南部町の古町温泉から協力したいという返事をいただいた。これで、さらに一步前進することになった。2店による2種類の「なんぶの駅弁」である。それぞれの店が試行錯誤して南部町産の野菜やくだものを使用したメニューを作り上げていき、できあがったのが「なんぶの駅弁～寿（ことぶき）」と「なんぶの駅弁～禄（ろく）」の2種類の駅弁である。敢えて2店のものを別のものとし、分けることで消費者にわかりやすいようにした。また、一つのなんぶの駅弁でくくってしまうにはもったいないほど内容のよい駅弁であったから分けずにはいられなかったのも事実だ。

この駅弁は注文を本会で受けてから店へ発注する方法をとった限定注文販売のみ。限定にすることで貴重価値を生むこともねらってであるが、反対に注文をうまくとらなければ売れない駅弁となってしまう恐れもある。開発してあとはおまかせと店任せにせず、「なんぶの駅弁」を一緒に盛り上げていくことで、店だけの販売活動にならない「なんぶ」という地域の駅弁販売としていきたいのだ。

なんぶのスイーツ開発販売では、地元の名久井農業高等学校に協力していただき、南部町産のにんにく「ふくちホワイト」を使用したにんにくスイーツができあがった。クッキー、パイ、パイスティックの3種類。試験的販売として、イベント時に高校生が製造し、販売したが、今後は町内菓子店で協力店を募り、名久井農業高等学校が開発したなんぶのスイーツとして協力店で製造し、販売していくこととした。募集した結果、協力店に熊谷菓子店が決定し、『名久井農業高校が開発したなんぶのスイーツ』として4月から販売する。

高校生ブランドによって限定価値が生まれ、それを地元の菓子店が製造し、販売することで店も元気にしていくねらいがある。

高校と商店、地域と仕出し店、惣菜店などのつながりによって、これらのアクションは可能になっている。このつながりがこうしてできあがったことがこの事業の大きな成果の一つでもある。これから、このつながりを広げ、さらなるアクションを起こしていきたい。



5 事業の検証を踏まえた展開

前項での検証のとおり、今後の展開はいくつも考えられる。それはより多くの協働する団体や個人があつてこそ生まれるものである。

具体的な展開について、アクションごとにまとめてみよう。

①駅のクリーン作戦&飾り付け

- ・ 4 駅周辺の協力団体・個人の募集～地元の駅を自分たちの手できれいにしよう！
- ・ 各駅近辺の小学校との協働アート製作
- ・ 年に 2 度程度の電車でGO！クリーン作戦の実施

②なんぶPR グルメ旅マップ作成

- ・ マップでの紹介する店との地域活性化への意識共有
- ・ なんぶのグルメ旅マップを活用しての本会によるグルメツアー
- ・ 旅マップPR

③駅舎内手づくり売店

- ・ 剣吉駅、三戸駅での地域の団体、個人と協働による手づくり売店の立ち上げ
- ・ 地域の方々の憩いの場となるコミュニティづくり
- ・ 生産者と消費者をつなぐ温かい売店づくり
- ・ 他のアクションへつながる協働の輪づくり

④なんぶの駅弁&スイーツ開発販売プロジェクト

- ・ なんぶの駅弁の限定注文販売
- ・ なんぶのスイーツの協力店による限定販売
- ・ イベントやツアーでの駅弁やスイーツの活用
- ・ PR、周知、売り込み強化



6 終わりに

青い森鉄道利活用アクション事業は本会に対しても、この地域に対しても大きなきっかけと次への可能性を与えてくれた。この1年間の取組みは本会の1団体だけではなく、駅周辺の地域や団体、個人にも少なからず何らかの刺激を与えたのではないだろうか。

何かを始めたりすることはとても大変なことである。ましてや自分自身のためではなく、地域のためだとなおさらであろう。しかし、誰かがきっかけをつくるとその一歩がいつの間にか大きな一歩となって道ができていく。そこに住む人誰もが、このまちをよくしたい、盛り上げていきたいと心の中にそっと潜めていて、誰かが声をあげてくれるのを待っているのだと思う。

きっかけは青い森鉄道の利活用を推進していこうというもの。この一つの目的がいくつものアクションを生み、それに関わる多くの方の思いがつながって、いくつもの目的がその先に見えてくる。

本会のスタッフは自分たちのやりがいや楽しみ、新たな目標、達成感につながっている。地域の方々は「もっとやってほしい」「盛り上げて行ってほしい」「できることなら協力したい」と私たちの活動を後押ししてくれる。商店会は駅前通りを活性化させようという熱い思いを語りだす。高校生は学生時代にこうして地域で活動したり、役に立つことに喜びを感じ、若い力で進んでいく。子どもたちは今を楽しみ、それが思い出となって将来、片隅に残るその思い出を大切に次世代の活動に結びつけていくだろう。

現在、家庭への自動車の普及などにより鉄道利用離れしていることは確かである。いざ、買い物しようというときに鉄道を利用していこうという発想は出てこない。しかし、どうすれば利用するだろうと考えていくと、自動車免許を取得していなかった頃はやはり鉄道を利用しているし、遠方へ旅行などに行くときには鉄道を利用している。これらの点を考えてみると、自動車を利用しない方、また遠方からの旅行客をどう呼び寄せることができるかだろう。

駅を起点にして目的の物が集まるような町づくり。駅周辺に商店街があり、病院があり、役場があり、学校があり、レジャーがあり、観光がありという具合に魅力がたっぷり凝縮されてあると理想的だが、そう簡単にはいかない。妥協するところはしたとして、商店街、レジャー、観光となるようなものはその地域で作ら上げ、盛り上げていけるのではないだろうか。それは大金を費やして作るのではなく、既存の地域資源を活かしていくやり方だ。

駅があるということが、まず大きな地域資源があるということなのだ。そこに、人や物の地域資源を結び付けていき、地域特有の面白みや魅力を出していく。

そこに住む人とともに地域をより魅力あるものにしていくために、この事業をきっかけに一步ずつ進んでいきたい。その思いによる多くの方々のアクションがきっと青い森鉄道利活用の推進につながっていくはずである。